

笑顔と元気を被災した故郷に届けた 北信越選手権で能登きらきら KIDS 全力の演技

会場の温かい声援と拍手が「きらきら KIDS」を包み込んだ。

2日、富山市総合体育館で開催された北信越選手権のエキシビション ジュニアスター。1月の能登半島地震で被災した石川のチアリーディングチーム能登きらきら KIDS が笑顔と元気を故郷に届けた。



「能登の豊かな緑」をチームカラーにした緑のユニフォームに身を包んだ中学生4人、小学生5人の9人は、演技マットに上がる前、全員で円陣を組んだ。能登に笑顔と元気を届けるために、「きらきら史上最高の演技をしよう」とのキャプテンの言葉に全員が気持ちをひとつにした。

だが、立ち上がりのスタントでミスが出て、1人が落下してしまった。広がる動揺に動きがかすむ。その時、会場に「頑張れー」「グリーン」「OK」などの声援が響いた。気持ちを持ち直した選手たちに笑顔が戻る。大きな声も復活した。その後は練習を積んできたダンスで会場を巻き込んだ。2分半を全員が演じきった。

ミスがあった分、引き上げてきた 9 人は目が赤かった。「練習では頑張ってきたけど、本番になったら焦ってしまった。でも、会場みんなが掛け声をくれて、立て直せた。本当に有難かった」「悔しさはあるけど、最後は声で会場を盛り上げた。良かったと思う」と話した。

チームには中学 3 年が 2 人。このチームでの演技は今年が最後になる。ともに能登半島地震で被災した志賀町出身。1 人は家が揺れた時に両親が不在でとても怖い思いをしたという。もう 1 人は家族とともに同じ町内の親戚宅へ避難した。

羽咋市と七尾市で 2 教室を指導するチームの代表によると、きらきら KIDS 総勢 23 人の家族に大事はなかった。だが、練習再開には 1 カ月を要した。1 月末には全日本高校選手権で優勝した箕面自由学園高（大阪）が演技中に急遽、「がんばれ」「北陸」のボードを出してくれた。同時期にあったアメリカンフットボールの金沢ワイセンベルグの西日本代表決定戦は、以前きらきら KIDS が応援した京都サウスベアーズとの対戦となり、両チームから 20 万円近い義援金も届いた。「たくさんの方が貴女たちを応援してくれているんだよ」と伝えて臨んだ大会だった。

「この経験がまた次に生きる」と代表。笑顔と元気と涙を乗せた 9 人の演技がこの日、富山と能登をつないだ。



本サイトの記事、写真の転載はご遠慮ください。無許可の転載・複製は法律により罰せられます。Unauthorized reproduction or duplication is punishable by law.